

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部診療放射線学科

名前 佐々木 恒平

作成日 2021年3月17日

【責任】

大学院医療技術学専攻および診療放射線学科に所属し、放射線計測学や放射線治療技術学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は放射線計測学と放射線機器に関する科目（放射線計測学、放射線治療技術学、診療画像機器学実験など）の担当、ゼミ生や大学院生の研究指導、国家試験対策、入試広報業務である。

【理念】

大学での学びの本質は、問題を自ら発見してそれを解決する能力の醸成だと考える。診療放射線技師の養成課程である本学科ではあるが、日進月歩で進歩する医療技術、特に放射線医療に対応するため、自ら考え、問題を発見し解決できるようになって欲しい。また、問題の重要な本質を2割まで絞り、物事を体系的に学ぶ主体的な姿勢を身につけることを切に願う。また、教員として新しいことを自ら学び続ける姿勢を模範として示していきたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するため、以下の教育活動の方法・方針を取り入れている。

● 主体的に学ぶ姿勢を身につける

実験・実習科目のとき、教員がすべてを教授するのではなく、学生にできるだけ説明をさせるようにしている。具体的には、目の前にある問題に対してグループでの議論を促し、全員がその中に参加できる環境を構築する。さらに、学生同士で教え合うことで全員が、それぞれ疑問を持ち、理解するという過程を重要視している。

● メリハリをつけることで主体的に学ぶ時間を作る

私は授業の開始時間・終了時間を厳守している。それは、学生に対し、時間は有限なものであること、なにか新しいことに挑戦しようとするときには時間が必要であること、その時間は自らが意識的に創造することが不可欠であることを伝えようとしている。

● 知識の体系化

授業科目では様々な科目で知識の体系化が重要である。別々に教わっていることを共通項でグルーピングする力、逆に一つの事柄を違った表現で説明する力が重要と考えている。放射線の分野では、“放射線”を主語にしているか、“放射線を受ける”物質”を主語としているかにより、本質的には同様のことであるが別々の事柄として扱われていることが多くある。また、放射線機器の原理も同様に、同じ概念が異なる用語を用いて表現されていることも多い。そのため、前述した力をつけるための授業運営を心掛けている。

● 成功体験から学習意欲の向上

モチベーションは行動によって生まれると考えている。さらに、成功体験を積むことで自発的に行動を起こすことができるようになる。その一環として、担当する授業科目では毎回最初に小テストを行うようにしている。前回の復習を促す意味もあるが、範囲の狭い小テストで正答することを習慣化することで成功体験を積み重ねることを一番の目的としている。また、問題演習を積極的に行うことで、“問題が解ける”から“面白い”と変容し、内容をより深く知りたいという興味づけに寄与すると考えている。

【成果・評価】

- 授業アンケートで授業以外の自習時間が増加したと回答している（アンケート結果）。
- 定期試験の平均点が向上し、試験の合格率もアップしている（定期試験結果）。
- 授業後や課外での学生からの質問が増加している。この中には純粋なわからないことだけでなく、学生が自ら考えた”問い”も多く含まれる。

【目標】

国家資格をとったその先のキャリアに向けた主体的な学習習慣や問題発見・解決力を育てるための教育を目指す。教員自らが新しいことを吸収しよう、やったことのないことに挑戦しようとする姿勢をみせていき、学生に還元していく。